

3rd Circular
日

2019 年 11 月 10

＊

＊

第 20 回東京科学シンポジウム

＊

＊

＊

＊ テーマ： 理性と希望の平和な時代を拓く

＊ — 実現しよう！個人の尊厳と生活の安心 —

＊

＊

＊ 開催日時：2019 年 11 月 30 日(土)～12 月 1 日(日)

＊ 開催場所：中央大学多摩キャンパス

＊ 主 催：日本科学者会議東京支部

＊

第 20 回東京科学シンポジウム 3rd Circular 発行にあたって

実行委員長 米田貢

第 20 回東京科学シンポジウムの開催が迫ってきました。日本科学者会議は、創設以来国民のための科学の発展を一貫して追求し活動してきた学際的な研究者集団です。東京支部は、この立場から隔年で東京科学シンポジウムを開催してきました。今回は、「理性と希望の平和な時代を拓く—実現しよう！個人の尊厳と生活の安心—」のテーマを掲げました。おかげさまで、会内外の研究者、技術者、高度専門職業人、市民運動や労働組合運動でご活躍の多くの方々のご協力で、2つの特別報告、20の分科会、5つの展示、3つのポスターセッションを企画することができました。また、それに先立ち平和コンサートや囲碁大会の文化的なプレ企画も行います。

20の分科会は、多くの市民がもっている安倍改憲を何としてでも阻止したい、核兵器のない世界を実現したい、ヘイトスピーチを許さないなどの政治的諸要求、普通に働けば普通の生活ができる賃金を確保したい、日本の食と農を守り発展させたいなどの経済的諸要求、ICT技術の発展が教育・労働・社会生活に及ぼす影響や、リニア中央新幹線問題も含め日本における科学・技術の健全な発展に関する問題関心、社会的格差の拡大により深刻化している教育現場での子どもたちの貧困や原発事故やたび重なる自然災害の被害者が政府によって置き去りにされている現状に対する不安や憤りなどを、科学者として共有し、その解決・実現のための根拠や条件を市民とともに考えようと企画されたものです。11月30日の午前から12月1日の夕方まで4つの時間帯に多彩な分科会が配置されています。ご自身の問題関心の赴くままに、分科会をハシゴしてみるのはいかがでしょうか。皆さんの知的好奇心、社会的・実践的な問題関心が満たされるのは疑

いなしです。

11月30日の午後に予定されている2本の特別報告は、是非ともお聞き逃しのないように。第一報告は、南彰氏（新聞労連中央執行委員長）「報道事変—1強化する権力と対峙するために—」です。朝日新聞政治部記者としての経験に基づく権力を監視するメディア再建に向けての問題提起です。第二報告は、上西充子氏（法政大学教授）「『多様な働き方が選択できる社会』と労働者の権利」です。時の厚生労働相の主張を「ご飯論法」として切り捨てた上西さんが、安倍政権が流布する「多様な働き方」の「呪い」を解いてくださいます。このお二人の特別報告は、市民だけでなく若い学生・大学院生にも有意義なものです。

シンポジウムの成功のために、お知り合いの研究仲間、市民運動や労働組合運動でのご友人だけでなく、身近にいる青年や学生にこの3rdサーキュラーでシンポジウムへの参加を呼びかけて下さることを切にお願いいたします。

1. 特別報告 11月30日(土)13:15-17:15（会場:7102 教室）

1. 南彰（新聞労連中央執行委員長・朝日新聞労組出身）

報道事変

—1強化する権力と対峙するために—

2. 上西充子（法政大学教授）

『多様な働き方を選択できる社会』と労働者の権利

2. 分科会

【1】分科会名:「安倍改憲」の息の根を止め、憲法を生活と政治に生かす！

・設置責任者:金子勝(立正大学分会)・中野貞彦(武蔵野通研分会)

・連絡先:s.nakano@d012.dant2.jp(中野)

・設置趣旨:参議院選挙で野党共闘の力が、改憲勢力の2/3議席占有を阻止した。しかし、今回投票率は50%を下回り、民主主義の機能が危ぶまれる。しかも安倍首相は「改憲」を諦めてはいない。「安倍改憲」の息の根を止め、憲法を生活と政治に生かしていくためには、多くの課題があり、そのために私たちは「不断に努力」していかなければならない。本分科会は、市民と一緒に分かり安く憲法を語り合う場としたい。

なお、憲法九条発案者と言われている幣原喜重郎の生誕150周年を記念して大阪府門真市の市民が中心になって映画「しではら」を制作、また東京では羽村市の市民が映画「五日市憲法」を制作。展示会場で、2つの映画を上映しますのでぜひ、ご覧ください。

12 月 1 日(日) 10:00-12:25	
座長:金子勝、中野貞彦	教室番号:7404
10:00-10:05	あいさつ
(1) 10:05-10:30	山崎正勝(東京工業大学名誉教授) 原子爆弾と戦争廃絶・放棄論 1945-1946
(2) 10:30-10:55	中野貞彦(武蔵野通研分) 忘れてはならない「大逆罪」で守られた天皇制の側面
(3) 10:55-11:20	二橋元長(「平和の学び場・コラボ 21」事務局長、埼玉県平和委員会代表理事) 21 世紀平和の担い手育成の目標と実践
11:20-11:25	休憩
(4) 11:25-11:50	青龍美和子(東京法律事務所) 「安倍改憲」の息の根を止め、憲法を生活に生かすために何が必要か?
(5) 11:50-12:15	金子 勝(立正大学分会) 「安倍改憲」阻止の課題
(6) 12:15-12:25	総合討論

【2】分科会名:被爆 75 年、2020 年を前にした「核兵器のない世界」への課題と展望

・設置責任者:梶原渉(一橋大学分会)

・連絡先:kajyan@antiatom.org

・設置趣旨:2020 年は被爆 75 年という節目の年であるばかりでなく、核不拡散条約(NPT)再検討会議が開かれ、核兵器禁止条約の発効も見込まれる、非常に重要な年になろうとしている。2020 年を目前に控えた本分科会では、核兵器禁止・廃絶をめぐる現状を確認した上で、市民社会が果たすべき役割を議論したい。特に今年の分科会では、科学者運動の一環として核兵器禁止・廃絶に取り組むことのそもそもの意義や担い手の世代継承についても議論したい。

12 月 1 日(日) 13:15-15:30	
座長:梶原渉	教室番号:7404
(1) 13:15-13:35	梶原渉(日本原水協) 核兵器廃絶をめぐる情勢と課題—運動の世代継承に焦点をあてて (座長あいさつ及び分科会の趣旨説明を兼ねる)
(2) 13:35-14:15	田中熙巳(日本被団協代表委員、東北大学元助教授、前・埼玉支部) 核兵器禁止・廃絶に向けての科学者・技術者の社会的役割について
14:15-14:20	休憩
14:20-15:20	質疑応答、討論

15:20-15:30	報告者からのコメント、閉会
-------------	---------------

【3】分科会名：戦争と文学について考える交流会

・設置責任者：風見梢太郎（武蔵野通研分会）

・連絡先：kazami@big.or.jp

・設置趣旨：安倍政権が日本を戦争に巻き込む動きをますます強める中、過去の戦争の悲惨さを広く国民に向けて語ることは、危険な動きを阻止する上でとても大切なことです。文学の中に語られた過去の戦争は、その実相を生々しく伝え、私たちの心を強く揺さぶります。小説に描かれた戦争の悲惨さを語り合う機会があればと考え、この分科会を設置いたします。日本文学の中の過去の名作とともに、最近の話題作、カズオ・イングロの描いた戦争責任、村上春樹の描いた戦争、能島龍三の『遠き旅路』（「しんぶん赤旗」連載）にもふれた報告（話題提供）を中心に交流したいと考えています。

12月1日（日） 13:15-15:30	
座長：風見梢太郎	教室番号：7405
13:15-13:25	あいさつ
(1) 13:25-13:55	風見梢太郎（武蔵野通研分会） イングロ、ハルキ、ノジマは戦争をどう描いたか ―「戦争と文学について考える交流会」
(2) 13:50-15:30	自由討論、交流

【4】分科会名：今、あらためて科学は平和のために―軍学共同の現段階と今後の展望を探る

・設置責任者：浜田盛久（神奈川支部）・小寺隆幸（個人会員）・多羅尾文徳（東京農工大分会）

・連絡先：tarao@cc.tuat.ac.jp（多羅尾）

・設置趣旨：日本学術会議は2017年3月、「軍事研究を行わない」という趣旨の1950年、1967年声明を継承する新声明「軍事的安全保障研究に関する声明」を幹事会決定した。新声明が学術界に与えた影響は大きく、2018年度以降、防衛装備庁の「安全保障技術研究推進制度」への大学からの応募・採択数は激減した。一方、公的研究機関や企業からの応募・採択数が増えており、本制度を梃として、日本社会に軍産学複合体が形成されていくことが懸念される。本分科会では、軍学共同をめぐるこのような新しい状況の下で、大学のあり方や科学者の社会的責任など、今後の展望を議論する。

12月1日（日） 15:45-18:00	
座長：多羅尾光徳	教室番号：7403
15:45-15:50	あいさつ
(1) 15:50-16:20	井原 聡（個人会員）

	軍事技術論再考－軍事研究と軍事技術をめぐって－
(2) 16:20-16:50	浜田 盛久(神奈川支部) 海洋の利用と開発は平和のために－第3期 海洋基本計画の策定と開始を受けて－
16:50-17:00	休憩
(3) 17:00-17:30	青木 和光・伊藤 哲也(国立天文台) 天文学分野における軍事的安全保障研究に関する議論の状況
(4) 17:30-18:00	総合討論

【5】分科会名：ヘイト・スピーチを許さない——地方自治体に何ができるか

・設置責任者：前田 朗(東京造形大学)

・連絡先：maeda@zokei.ac.jp

・設置趣旨：マイノリティに対する差別と排外主義が強まり、ヘイト・スピーチが社会問題として注目を集めた。2016年にはヘイト・スピーチ解消法が制定され、「ヘイト・スピーチを許さない」と明記されたが、「理念法」であって具体的な施策は示されず、地方自治体に委ねられた。国立市、京都府、京都市、神戸市、川崎市など各地の自治体では、人権条例、ヘイト・スピーチ条例、適用のためのガイドライン策定等が進められている。そこで差別とヘイトを許さないために自治体には何ができるのか、何をすべきなのか検討する。

12月1日(土) 13:15-16:00	
座長：前田朗	教室番号：7406
13:15-13:20	開会
(1) 13:20-13:50	明戸隆浩(東京大学大学院) 地方におけるヘイトスピーチの現状
(2) 13:50-14:20	師岡康子(弁護士) 川崎市反差別条例(素案)の到達点
(3) 14:20-14:50	前田朗(東京造形大学) 公の施設ガイドラインを巡って
14:50-15:00	休憩
15:00-16:00	質疑・討論

【6】分科会名：次世代につなぐ平和・共生と女性研究者・技術者 Part 3—女性研究者・技術者の現代の困難をどう乗り越えるか？—

・設置責任者：中島明子(J 分会)

・連絡先：mamanotanuki@yahoo.co.jp

・設置趣旨：これまでの分科会テーマ、「次世代につなぐ平和と女性研究者・技術者」を、今回も引き継ぎ

ます。第1部は女性大学院生・若手の研究発表を行い、より多様で豊かな女性研究者の発展を期待する場にします。第2部では、昨年実施した女性会員アンケートをふまえ、女性が抱える困難—特に2000年あたりを契機とした不安定雇用の増大や環境の変化について、その実態や背景と要因を深め、それを乗り越える協同のあり方を考えたいと思います。

12月1日(日) 15:45-18:00	
座長:第I部 岡田安代、衣川清子	教室番号:7404
15:45-15:50	主旨説明 (中島明子)
15:50-15:55	あいさつ (岡田安代)
(1) 15:55-16:10	織田奈緒子 (和洋女子大学) ミャンマーの民族衣装と身体装飾の研究と課題
(2) 16:10-16:25	峰尾菜生子 (中央大学) 大学生の社会観の形成過程
16:25-16:35	休憩
16:35-16:40	あいさつ (衣川清子)
(3) 16:40-16:55	姉齒暁 (駒澤大学) 今日の女性の困難—格差・貧困と女性
(4) 16:55-17:10	山賀 徹 (東京私大教連副委員長) 私立大学をめぐる諸問題と私大教連の取り組み
(5) 17:10-17:25	小尾晴美 (中央大学) 「大学改革」下の若手研究者—研究者の『多様な育ち』を支える大学のあり方について考える
17:25-17:55	討論
17:55-18:00	まとめ

【7】分科会名:院生・若手 小さな冬の学校

・設置責任者:葛西洋平(明治大学分会)、吉村さくら(中央大学院生分会)

・連絡先:fire_water0128@yahoo.co.jp (葛西)

・設置趣旨:本分科会では、院生・若手会員の研究報告、研究交流を行う。現在、東京支部全体の院生企画は院生幹事が行っているが、研究交流は修論報告が中心になっている。本分科会では、博士課程以上の院生・若手会員の研究報告の機会を設けることで、より院生・若手会員間の研究交流を活性化させる一助としたい。

12月1日(日) 13:15～15:30	
座長: 葛西洋平	教室番号: 7409
13:15-13:20	あいさつ
(1) 13:20-14:00	中島雅登(個人会員) ダブルマイノリティである私の研究・就活上の困難と当事者研究
(2) 14:00-14:40	松尾一郎(個人会員) 高分子材料を用いた生体のモデル化研究ー海外研究体験を交えてー
(3) 14:40-15:20	土肥有理(明治大学) ドイツにおける極右の伸長をどう見るか
15:20-15:30	閉会あいさつ

【8】分科会名: Post3.11 研究会—3.11 と復興を考える—

・設置責任者: 葛谷泰慣(明治大学分会)

・連絡先: xenon1516@gmail.com

・設置趣旨: あの“3.11”から8年が経過した。来年に東京オリンピックを控えるがその華々しさの背後には、期限が迫りつつも今も仮設住宅に暮らさざるを得ない人々の存在や、福島第一原子力発電所は「アンダーコントロール」だとして招致した事実が横たわる。フクシマの原発事故とは何だったのか、どのような影響が出ているのか。“3.11”の後立ち上がり、大学院生をメンバーとして、それぞれの研究テーマや関心と絡めて“3.11”と今を追い続ける研究会が私たち post3.11 研究会です。

12月1日(日) 15:45-18:00	
座長:	教室番号: 7409
15:45-15:50	あいさつ
(1) 15:50-16:30	小泉洋樹(明大分会) フランス政治と原子力発電の関係
(2) 16:30-17:10	齋藤雛乃(東京農工大) 自由自治の政治
17:10-17:20	休憩
(3) 17:20-18:00	吉村さくら(中大院生分会) 福島フィールドワーク報告

【9】分科会名: 災害問題分科会

・設置責任者: 中山俊雄(都立研分会)

・連絡先: otto.nakaya@gmail.com

・設置趣旨: 2018年は災害の年であった。西日本豪雨災害、大阪北部地震、北海道胆振東部地震など、日本各地で災害が発生した。災害は、自然現象とその時の社会状況の下で発生する。したがって災害現象は”進化する”。2018年の災害を分析し、東京、首都圏の防災のあり方を議論する。

12月1日(日) 13:15-15:30	
座長: 中山俊雄	教室番号: 7410
13:15-13:20	あいさつ
(1) 13:20-13:50	土屋十圀(中央大学理工学研究所(前橋工科大学名誉教授)) 激甚化・広域化する豪雨災害—リスク低減策の課題
(2) 13:50-14:20	川又 秀夫(八王子市川町の環境を守る会) 八王子市川町に計画されている谷埋め残土持ち込み計画の問題点と 同市戸沢峠の残土崩落事故の概要について
14:20-14:30	休憩
(3) 14:30-15:00	嶋津暉之(水源連) ハツ場ダム問題活動の到達点と今後の課題
(4) 15:00-15:30	末廷渥史(首都圏防災懇) 自然現象を災害にさせないために

【10】分科会名: 科学・技術の現状批判 —日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part13—

・設置責任者: 長田好弘(武蔵野通研分会)・酒井士朗(武蔵野通研分会)

・連絡先: ssakai@jcom.home.ne.jp(酒井)

・設置趣旨: 地震・火山噴火・豪雨災害、輸送・電力・通信で多発する事故、サイバーセキュリティ、ネット利用犯罪の重大化への対応をはじめ、わが国の科学および技術は基礎から応用までつりあいのとれた発展(科学の創造と総合化)が求められている。官邸主導の科学技術振興の現状は、本来の大学のあり方を破壊しつつ「科学技術イノベーション戦略」を推進する「大学の企業化」であり、米軍と一体となった軍装備の高度化・軍需産業の育成である。大学・研究機関および民間企業の研究者・技術者の連帯の条件は広がっている。要求と闘い、社会的責任と役割、国民との共同などについて、広く議論、交流する場としたい。

12月1日(日) 15:45-18:00	
座長: 酒井士朗	教室番号: 7405
15:45-15:50	あいさつ
(1) 15:50-16:15	長田好弘(武蔵野通研分会) 世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進計画を読む — 主に「Ⅱ デジタル技術の社会実装」に注目して —
(2) 16:15-16:40	小滝豊美(JSA 国公立試験研究機関問題委員会) 「Society5.0」実現に動員される国立研究開発法人とその背景

(3) 16:40-17:05	兵藤友博(立命館大学) 科学技術基本計画を俯瞰して—研究資源をどう考えるか—
17:05-17:10	休憩
(4) 17:10-17:35	増澤誠一(特許庁分会) 変わる知的財産事情2019
(5) 17:35-18:00	池上幸江(J分会) 食の安全確保に関わる研究支援体制の検証

【11】分科会名:科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part12—

・設置責任者:長田好弘(武蔵野通研分会)・松永光司(武蔵野通研分会)

・連絡先:matsunaga_mitsushi@hotmail.com(松永)

・設置趣旨:この 10 年間ほど毎年のようにノーベル賞受賞の快挙にわくなく、突如として官邸主導による日本の「研究力低下」や「大学の危機」の議論が学术界を席卷する様相を示した。安倍政権はアベノミクス総破綻と国民生活破壊を覆い隠しつつ、なおも立憲政治破壊、極右化・ファッショ化への暴走をつづけている。これら二つの事柄について、国民はどのように受け止め理解しているのだろうか。安倍政権の罪惡を阻止するための市民各層と各専門分野の研究者の広範な協同を必要とするとき、学術の現状と国民生活についてさまざまな角度・視点から議論・交流を深めたい。

11 月 30 日(土) 10:00-12:15	
座長:長田好弘、松永光司	教室番号:7411
10:00-10:05	あいさつ(趣旨説明)
(1) 10:05-10:25	長田好弘(武蔵野通研分会)「論文数減少・研究力低下・大学の危機」の 論議に寄せて —科学者の平和のための役割に視点を置いて—
(2) 10:25-10:45	石渡真理子(ミズ分会) 豊洲中央卸売市場の地下水汚染をめぐる
(3) 10:45-11:05	石綿勇(武蔵野通研分会) 台風 15 号による大規模停電を考える
11:05-11:15	休憩
(4) 11:15-11:35	中野貞彦(武蔵野通研分会) 福島原発事故・東電刑事裁判の判決を読む
(5) 11:35-11:55	奥村 義治(個人会員) 思い込み・偏見を検証する ～温暖化問題について～
(6) 11:55-12:15	野村 康秀(特許庁分会) 知的財産権制度を憲法の民主的原理から改めて考える

【12】分科会名：自然科学の進展を俯瞰する～この30年で何がどう変わったのか？

・設置責任者：青木和光(国立天文台分会)

・連絡先：aoki.wako@nao.ac.jp

・設置趣旨：自然科学の各分野で著しい進展がある一方、専門化が進んでいるため、科学者の間で必ずしもそれを共有しにくい状況があるのではないのでしょうか。各分野の専門家が集まる日本科学者会議の特色をいかし、ここ30年程度における進展を研究者個人の視点でみつめなおし、それを交流することで自然科学の潮流をつかむことを目標にします。分科会では、2人の報告者からそれぞれの専門分野で研究の進展があったところや科学者の認識が大きく変わったところの紹介を受けたうえで、参加者にも各分野の状況を発言いただきます。

12月1日(日) 10:00-12:15	
座長：松尾一郎	教室番号：7406
10:00-10:05	あいさつ
(1) 10:05-10:45	青木和光(国立天文台分会) 天文学における30年の大きな進展
(2) 10:45-11:25	佐伯有真(個人会員) 最近30年の「火山とマグマの出来かた」に対する認識の発展
11:25-12:15	参加者からの自己紹介・研究紹介と議論(今後とりあげたいテーマなど)

【13】分科会名：IT技術と教育・労働・社会生活 Part 6

・設置責任者：酒井士朗(武蔵野通研分会)、矢作英夫(武蔵野通研分会)

・連絡先：myahagi@viola.ocn.ne.jp(矢作)

・設置趣旨：政府は新たな価値創出を図るとして、サイバーセキュリティ、IoTシステム、ビッグデータ解析、AI、などの強化を掲げている。近年、個人情報漏洩や不正利用、防犯カメラの急増、振り込め詐欺・ネット犯罪、IT・AIによる合理化と労働強化などの問題が顕在化している。本分科会は、各分野でのIT化の現状と課題、とりくみの経験を交流し、国民のためのIT技術のあり方を考える連帯の場としたい。

11月30日(土) 10:00-12:15	
座長：矢作英夫	教室番号：7412
10:00-10:05	あいさつ
(1) 10:05-10:35	宮川清三郎(武蔵野通研分会) 5Gを考える
(2) 10:35-11:05	矢作英夫(武蔵野通研分会) 個人情報収集のビジネス化の問題
11:05-11:15	休憩

(3) 11:15-11:45	橋本しげき（武蔵野市議会議員） 自治体の情報化の現状（武蔵野市の事例）
(4) 11:45-12:15	酒井士朗（武蔵野通研分会） 安倍政権のデジタル社会化推進と国際市民社会の批判

【14】分科会名：リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流(part3)

・設置責任者：長田好弘（武蔵野通研分会）・中野貞彦（武蔵野通研分会）・橋本良仁（高尾分会）

・連絡先：s.nakano@d012.dant2.jp（中野）

・設置趣旨：日本科学者会議「声明」（2014.7.15）が指摘したリニア中央新幹線計画の重大な欠陥は、国・JR東海が工事を強行するほどに次々と現実のものとなってきている。トンネル工事に起因する水資源・残土処理・振動・騒音・大気質劣化、大深度地下法適用と酸欠気泡発生、ヒ素・フッ素・ウランを含む残土の発生…。認可取り消しと環境再評価をすべき事態である。裁判では、いま原告適格性が争われている。全国民が原告適格を有するとの原告の主張を国民的議論に乗せるべく交流の輪を広げていきたい。

12月1日(日) 13:15-18:00	
座長：長田好弘、中野貞彦、橋本良仁	教室番号：7411
13:15-13:20	あいさつ
(1) 13:20-13:50	長田好弘（標記委員会代表）日本科学者会議リニア研究会の活動—工事中止（認可取消し）と環境影響再評価を求める—
(2) 13:50-14:20	庄司善哉（岐阜支部）リニア中央新幹線中津川市山口非常口トンネル斜坑崩落事故と阿寺断層
(3) 14:20-14:50	林 弘文（静岡支部、静岡大学名誉教授）静岡県におけるリニア新幹線トンネル問題
(4) 14:50-15:20	松永光司（武蔵野通研分会） リニア中央新幹線の走行騒音を考える—浮上と騒音のメカニズム—
15:20-15:30	総合討論
(5) 15:45-16:15	川村晃生（慶応義塾大学名誉教授、ストップ・リニア！訴訟原告団長） リニア計画の問題点と運動の現状
(6) 16:15-16:45	米山義盛（伊那谷・残土問題連絡協議会）・桂川雅信（長野支部） 伊那谷における残土処分問題
(7) 16:45-17:15	桜井真理・河内正道（リニア新幹線を考える相模原連絡会） 相模原で起こるリニア被害について 神奈川駅工事による周辺環境への

	影響と非常口変更・残土処分問題
(8) 17:15-17:45	関島保雄(弁護士、ストップ・リニア中央新幹線訴訟弁護団共同代表) リニア中央新幹線訴訟の現状と課題
17:45-18:00	総合討論

【15】分科会名:現代日本資本主義の性格と変革の課題

・設置責任者:村上研一(中央大学分会)

・連絡先:murakami@tamacc.chuo-u.ac.jp

・設置趣旨:今日の日本経済は、電機産業などの競争力低下や産業空洞化に加え、少子化・人口減少や個人所得の低迷に起因して内需も停滞している。こうした中、投資が停滞する中で、大企業の収益は増大する一方、格差・貧困は確実に広がっている。この分科会では、現代日本資本主義の性格をどのように把握するか、また、格差・貧困を是正してより多くの人々の豊かな生活を実現するためにどのような変革が必要なのか、議論を深めていきたい。

12月1日(日) 13:15-15:30	
座長:村上研一	教室番号:7412
13:15-13:20	あいさつ
(1) 13:20-13:50	鶴田満彦(個人会員) 歴史的な岐路の日本資本主義
(2) 13:50-14:20	佐久間英俊(中央大学分会) 現代日本における流通支配と変革の課題
(3) 14:20-14:50	野村康秀(科学・技術政策委員会、特許庁分会) 成長戦略に組み込まれた科学技術政策のキーワード「イノベーション・エコシステム」の狙いと大学・国研の危機
14:50-15:00	休憩
(4) 15:00-15:30	全体討議

【16】分科会名:「働き方改革」を打ち破り労働者の権利の拡充を

・設置責任者:米田貢(中央大学分会)

・連絡先:myoneda@tamacc.chuo-u.ac.jp

・設置趣旨:アベノミクスの成長戦略の根幹には、労働者を無権利状態にする「規制緩和」＝「働き方改革」がある。政策的に大量に創出された非正規労働者ばかりではなく、正規労働者や労働組合に結集している大企業労働者までもが、生活苦に喘いでいる。普通に働けば普通の暮らしができる状況をどうやっ

て確立するのか。「ファンド規制と労働組合」研究会の経験を踏まえて、研究者と労働組合関係者との共同の討議を深めたい。

11月30日(土) 10:00-12:15	
座長: 米田貢	教室番号: 7404
10:00-10:05	あいさつ
(1) 10:05-10:40	梶哲宏(全労連・全国一般東京地方本部副委員長) 日本の貧困はどう作られたか～打開のカギは全国一律最賃制～
(2) 10:40-11:15	中澤秀一(静岡県立大学短期大学部) 普通の暮らしを可能にする賃金とはー最低生計費試算調査から見えてくるものー
11:15-11:20	休憩
(3) 11:20-11:55	小越洋之助(国学院大学名誉教授) 労働者の賃金闘争ーその現状と課題
11:55-12:15	全体討論

【17】分科会名: 現代日本における教育と貧困の関係を問う

・設置責任者: 中村清二(大東文化大学)

・連絡先: nacamuraiseiji@gmail.com

・設置趣旨: 1995年の日経連の「新時代の日本的経営」以来の雇用破壊と新たな低賃金構造の創出、さらには安倍政権の進める「働き方改革」によって、現代日本の貧困問題は深刻化している。教育の現場では、生活に必要なカロリーの大部分を学校給食に頼らざるをえない児童の増大が問題視されている。子どもに3度の食事すら与えることができない家庭で、子供たちはどのように、人間として成長していくことができるのか？教育の現場に現れている貧困問題の実態を解明し、すべての子どもの発達のために必要な基本的条件を考える。

11月30日(土) 10:00-12:15	
座長: 中村清二	教室番号: 7405
10:00-10:05	あいさつ(分科会趣旨説明)
(1) 10:05-10:55	工藤芳弘(都教組元委員長) 「教育現場から見た子どもの貧困と格差ー子どもの貧困を解消し、子どもたちが未来に希望をもてる社会にするためにー」
10:55-11:05	質疑
11:05-11:15	休憩

(2) 11:15-12:05	荒井文昭(首都大学東京) 貧困問題と学校の役割—ニュージーランドにおける取り組みを事例にして—
12:05-12:15	質疑

【18】分科会名：平和な時代を拓く

・設置責任者：真嶋麻子(日本大学)、森原康仁(専修大学)

・連絡先：asacom0413@gmail.com

・設置趣旨：核兵器禁止条約の国連採択以降、核兵器全廃もとめる国際世論はますます大きくなっているが、安倍政権は背を向けつづけている。朝鮮半島情勢は米朝首脳会談の断続的な開催の一方、北朝鮮のミサイル発射や、韓国との徴用工問題など歴史問題を背景に、複雑で再び緊張を増している。国内では安倍首相は憲法9条改憲に執着し、大軍拡を進め、研究者の軍事研究への動員も引き続き強めている。首都圏では横田基地へのオスプレイ配備が強行され、海外戦闘体制の一環として自衛隊入間基地では後送病院建設が進められている。沖縄米軍基地問題も日本国民全体の問題として重大である。いま安保条約、日米地位協定のもとで脅かされる平和の実態をつかみ、国民的な連帯での平和への道をさぐる。

12月1日(日) 10:00-12:15	
座長：森原康仁	教室番号：7409
10:00-10:10	あいさつ
(1) 10:10-10:35	山口真美(三多摩法律事務所) アメリカ軍横田基地をめぐる問題—「静かな夜を返せ」基地公害の根絶をめざすたたかい
(2) 10:35-11:00	土肥有理(明治大学) 戦後ドイツにおける反ファシヨ委員会運動—自律的運動の試み—
11:00-11:05	休憩
(3) 11:05-11:20	討論①鈴木 航(中国近現代史、早稲田大学・文教大学非常勤講師)
(4) 11:20-11:35	討論②真嶋 麻子(国際関係学、日本大学)
(5) 11:35-12:15	全体討論

【19】分科会名：日本の食・農と首都圏の役割を考える

・設置責任者：西村一郎(個人会員)

・連絡先：info@nishimuraichirou.com

・設置趣旨: TPP11 や種子法廃止などの影響もあり、日本の今後の農業にさらなる心配が広がる。食料自給率は最悪の37%となる中で、遺伝子組み換えやゲノム編集の食品が広がりつつある。国民の求める安心・安全・安定で地域に根差した食と農が、これまで以上に求められており、そうした中での首都圏における現状と役割を参加者と一緒に考える。

11月30日(土) 10:00-12:15	
座長: 西村一郎	教室番号: 7406
(1) 10:00-10:25	原英二 (食糧問題研究委員会) 日米貿易交渉と食の安全
(2) 10:25-10:50	本間圭吾 (食糧問題研究委員会) 多国籍企業による「食と農」支配のゆくえ
(3) 10:50-11:15	吉森弘子 (たねと食とひと@フォーラム・食糧問題研究委員会) ゲノム編集食品の現状と課題
(4) 11:15-11:40	立石昌義 (埼玉農民連会長・食糧問題研究委員会) 「豚コレラ」「アフリカ豚コレラ」から日本の養豚業を守る
(5) 11:40-12:05	西村一郎 (食糧問題研究委員会) 生協産直の現状と課題
(6) 12:05-12:15	全体討論

【20】分科会名: 大学問題を考える

・設置責任者: 佐々木弾 (東京大学分会)

・連絡先: dsasaki@iss.u-tokyo.ac.jp

・設置趣旨: 日本の国立大学・研究機関は、空前の予算緊縮で風前の灯。明治初年の帝国大学開設以来、毀誉褒貶こそあれ知的な国として世界の敬意を集めてきた日本。それが近年頃に、反知性の奈落への崖っぷちに追い込まれている。先見の明ある先達たちの歴代の知への投資を継承発展させるのか、はたまた知の蓄積をあたたら放棄し愚昧な二流国へ転落するのか。高等教育という国力の源泉を蔑ろにし、公的財政の大赤字を将来へツケ回すなど、将来世代である青少年たちを国家規模で組織的に搾取・収奪して本当に後悔しないのか。国民的・国家的議論が急がれる。

12月1日(土) 10:00-12:15	
座長: 米田貢	教室番号: 7403
10:00-10:05	あいさつ(分科会趣旨説明)
(1) 10:05-10:40	高木志郎 (東京大学大学院・大学院生)

	アカデミアが抱える問題—大学院生の視点から
(2) 10:40-11:15	松村比奈子（拓殖大学他非常勤講師・首都圏大学非常勤講師組合副委員長） 組合民主主義と大学民主主義—大学にかけているのは民主主義の精神ではないか
11:15-11:20	休憩
(3) 11:20-11:55	佐々木弾（東京大学） 反知性先進国日本の黒慄（こくりつ）大学・研究機関：衣食足らずんば礼節知らず—差別、アカハラ、首切り、劣悪待遇
11:55-12:15	全体討論

3. ポスターセッション

統括設置責任者：日本科学者会議東京支部事務局

設置主旨：東京支部の分会、個人会員・若手院生、女性研究者等の活動概要を広く会内外に紹介する。また関東甲信越地区各支部にも呼びかけ、可能な範囲で活動の促進と親睦を図る。

〈展示予定ポスター〉

- 似顔絵コーナー 若松倫夫
- 千葉県の農家における台風被害と復興の様子 西村一郎
- 武蔵野通研分会の集会参加の活動 武蔵野通研分会

※ポスターセッションの応募は引き続き受け付けます。

4. 展示（シンポジウム期間中開催）

1. 自分の学問との関係で九条問題の受け止めを—「九条科学者の会」15年の軌跡—
2. 憲法にかかわる映画—市民制作の2本を上映
3. 731部隊展 —平和を目指す日中歴史認識のための展示—
4. 日本・キューバ友好の展示とイベント—キューバに関する知見や文化を紹介！多面的にキューバを体験してください！
5. 日本と朝鮮半島の友好のための展示 —「1923年関東大震災朝鮮人虐殺に関するパネル」展示—

5. プレ企画イベント

プレ企画イベント

「東京科学シンポジウム記念囲碁大会」

日時：11月3日（日・祝日） 10:00-16:00

会場：武蔵野市西久保コミュニティセンター

囲碁プロ棋士による指導碁もありました。無事に終わりました。

連絡先：myahagi@viola.ocn.ne.jp（矢作英夫）

個人会員活動 30 年のタベ

日時：2019 年 11 月 10 日（日）14:00-17:00

場所：中央大学後楽園キャンパス 3 号館 3300 教室

連絡先：河上茂 E-mail: skawakami@kmail.plala.or.jp

電話：080-8828-7732、FAX：045-585-4157

6. 開催 20 回特別企画

東京科学シンポジウムの第20回の開催を記念した企画です。

音楽会「平和のためのサロンコンサート」

日時：11月23日（土） 18:00-20:30（18:15 開演）

会場：神楽坂香音里

内容：小林緑さん（国立音楽大学名誉教授）

ピアノ＝エミィ・轟シュワルツさん、フルート＝久保順さん

定員：先着 50 名

申込・問合せ：11/10～11/20 の期間中 中島明子さん mamanotanuki@yahoo.co.jp

までメールで申込み

飲食提供：コーヒー

参加費：一般 2000 円、学生・院生 1000 円

7. 開催日程（会場の都合で一部変更となる場合があります）・参加費

11月30日(土)	09:30～10:00	受付		参加費	懇親会費
	10:00～12:15	分科会 1	一般	2,000 円	3,000 円
	13:15～17:15	特別報告	院生・学	1,000 円	1,000 円
	17:30～	懇親会	生		
※会員・非会員の区別はありません					
12※参加費には予稿集代金含まず					
		分科会 2			
		分科会 3			
	15:45～18:00	分科会 4			

8. シンポジウム会場&懇親会

会場:中央大学・多摩キャンパス(東京都八王子市東中野 742-1) 7号館(受付:2階)

懇親会:11月30日(土)17時30分～ 中央大学・多摩キャンパス



主要駅からのアクセス

- 多摩モノレール「中央大学・明星大学駅」から徒歩1分
- 京王線「多摩動物公園駅」から徒歩10分
- 小田急・京王線「多摩センター駅」下車、バス(13番バス停)で12分
- JR「豊田駅」下車、バス(4番バス停)15分

**☆ご案内**

12月1日(日)(シンポジウム2日目)は食堂が休みです。
会場近辺には食堂がないため、昼食は各自持参をお願いいたします。

☆お知らせ

シンポジウムのチラシが完成しましたので、宣伝・配布にご活用ください。必要部数と送付先を実行委員会にまでお知らせください。

第20回東京科学シンポジウム実行委員会

青木和光(支部常任幹事)、江川章(支部幹事)、葛西洋平(支部常任幹事)、衣川清子(支部常任幹事)、○佐久間英俊(支部常任幹事)、土肥有理(支部幹事)、中島明子(支部常任幹事)、中野貞彦(支部常任幹事)、中村清二(支部幹事)、真嶋麻子(支部幹事)、松尾一郎(支部幹事)、松永光司(支部代表幹事)、村上研一(支部幹事)、森原康仁(支部常任幹事)、吉村さくら(支部常任幹事)、◎米田貢(支部事務局長)

◎：実行委員長、○：実行委員会事務局長

日本科学者会議東京支部 第20回東京科学シンポジウム実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル9階

Tel/Fax : 03-3811-8281 e-mail : 20th-kagaku@jsa-tokyo.jp

第20回東京科学シンポジウム 分科会等の日程と会場

会場は全て7号館			発表 件数	11月30日(土)		12月1日(日)		
				午前	午後	午前	午後	午後
				10:00～ 12:15	13:15～ 17:15	10:00～ 12:15	13:15～ 15:30	15:45～ 18:00
特別報告			2		7102			
分科 会	1	「安倍改憲」の息の根を止め、 憲法を生活と政治に生かす！	5			7404		
	2	被爆75年、2020年を前にした 「核兵器のない世界」への課題と展望	2				7404	
	3	戦争と文学について考える交流会	1				7405	
	4	今、あらためて科学は平和のために -軍学共同の現段階と今後の展望を探る-	3					7403
	5	ヘイト・スピーチを許さない —地方自治体に何ができるか—	3				7406	7406
	6	次世代につなぐ平和・共生と女性研究者・技術 者 Part 3—女性研究者・技術者の現代の困難 をどう乗り越えるか？—	5					7404
	7	院生・若手 小さな冬の学校	3				7409	
	8	Post3.11研究会—3.11と復興を考える—	3					7409
	9	災害問題分科会	4				7410	
	10	科学・技術の現状批判 —日本の科学・技術の 健全な発展のための課題 part13—	5					7405
	11	科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状と ロマンを語るpart12—	6	7411				
	12	自然科学の進展を俯瞰する ～この30年で何がどう変わったのか？	2			7406		
	13	IT技術と教育・労働・社会生活 Part 6	4	7412				
	14	リニア中央新幹線問題の検討と 運動・経験交流(part3)	8				7411	7411
	15	現代日本資本主義の性格と変革の課題	3				7412	
	16	「働き方改革」を打ち破り労働者の 権利の拡充を	3	7404				
	17	現代日本における教育と貧困の関係を問う	2	7405				
	18	平和な時代を拓く	2			7409		
	19	日本の食・農と首都圏の役割を考える	5	7406				
	20	大学問題を考える	3			7403		
展 示	1	自分の学問との関係で九条問題の受け止めを —「九条科学者の会」15年の軌跡—		7401				
	2	憲法にかかわる映画—市民制作の2本を上映		7401				
	3	731部隊展 —平和を目指す日中歴史認識のた めの展示—		7402				
	4	日本・キューバ友好の展示とイベント—キューバ に関する知見や文化を紹介！多面的にキュー バを体験してください！		7408				
	5	日本と朝鮮半島の友好のための展示 —「1923 年関東大震災朝鮮人虐殺に関するパネル」展示 —		7407				
ポス ター セッ ション	1	似顔絵コーナー		7303				
	2	千葉県の農家における台風被害と復興の様子		7303				
	3	武蔵野通研分会の集会参加の活動		7303				
控室		会員控室		7303				
		実行委員控室		7302				

懇親会:1日17:30～ 1号館1410教室